三十日刊
磐城時報

福島縣石城郡平町紺屋町十四
編輯兼發行人　岡田弘成
印刷所　福島縣石城郡平町紺屋町十四
印刷所　加納活版所
發行所　磐城時報社
一部金貳錢　一ヶ月金參拾錢
廣告料一行十四字詰金五拾錢
毎日刊（日曜、祭日）休刊

鰻上りの繭價
きのふ四十八圓に達す
最盛期の來月二三日頃には五十四五圓にならう

四倉繭市場の秋繭取引は初日以來活況を見せ二十九日の如きは早朝から取引開始し午後六時に至り九百余貫の取引が終つても直ほ賣人續出する盛況を示し相場は最高四十八圓といふ素張らしい高値を示した。尚暴騰の氣配が見えてゐるから出廻最盛の九月二三日頃には五十四五圓を現出するであらうと察せられてゐる、二十九日の取引左の如くである

▲四倉市場
九百六十三貫、最高四十八圓三十錢、最底三十九圓、平均四十四圓三十錢

▲植田市場
二百十貫、最高三十七圓八十錢、最底三十四圓六十錢、平均三十五圓八十錢

數年間苦しんでゐた
養蠶家に歡聲
四十圓で賣れば一圓の利益
四倉繭市場酒井專治氏談

繭價騰貴の原因並に生産費との關係について四倉繭市場幹部酒井專治氏は語る。

騰貴の原因は第一が爲替暴落に依るものであり、更に限産がきいて品不足が豫想さるゝに至つたことである、從つてこのまゝで爲替が落着き米國邊の需要が增加すれば糸價は更に吊上り繭價もまだ〳〵騰貴するものと思はれるが果して爲替がこの程度で落着くかが問題で爲替管理などが具体化せば一擧暴騰せぬとも限らないから糸價繭價今度も相當强含みに出て居るが全然安心もならない。

しかし何としても糸價繭價の高騰は農家を潤すことが甚大だ、不況に泣いた農村も此度の繭では俄に元氣付けられて居る、殊に今年の生産費は極めて少いものである、何しろ今秋蠶の計劃費は糸價不況のドン底時代に於て最も悲觀的な見地から樹てられたもので恐らく最少限度の生産費が計上されたことであらうそうした安い生産費で作り出したものが豫想の二倍近くに高騰したのであるから農村の喜びは一方でない。今年生産費は昨年の生産費三圓四十錢（本縣蠶糸課調査）に比して之れより一割五分から二割方の遞減で約二圓八九十錢位であらう。繭が四圓すれば一貫から一圓一二十錢の利益が得らるゝ譯である。

尚試みに最近三ヶ年間に夏秋蠶の一貫匁當の生産費と賣買價格との比較を示せば左の如く何れも農家の赤字となつて居る、今年はこの赤字を見ないで濟むことは確かである。

年次	生産費（錢）	値段（錢）
昭和四年	六二七	六一〇
同　五年	五〇七	二〇一
同　六年	三四〇	二八〇

石城の水稻に
苞虫著るしく發生
然し施す術がない

石城地方稻作は植付當時から絶好の天候に惠まれ近年稀の豐作を豫想されてゐたが、最近に至り石城郡一圓に苞虫が著るしく發生し被害も相當甚大であらうと察せられるに至つた。右害虫の最も甚だしいのは勿來町大浦、草野、大野の三村で被害反別は

	被害反別	被害八割以上
勿來	五〇町	五町
大野	一五〇町	二〇町
大浦	一九〇町	二〇町
草野	一五〇町	二〇町

である、右につき石城郡駐在米山技師は語る。

「苞虫は山の竹の葉で冬を越した成虫が六月頃水田に來り一枚の稻の葉に一粒づゝ卵を産みつける幼虫は稻の葉を食ひ蛹に化す頃は長さ三四寸となり葉數枚を集めて繭樣のものをかける、之がため稻の結實に害があるものであるが氣溫が秋遲くまで高い場合は被害が少ない、然し驅除の方法は絶無であるから今になつては施す術がない」

重量四十貫の怪物
亀に似てヒレがあるもの

三十日朝小名濱港に入港した經船は歸航の途中海面に怪物が浮游してゐるのを發見捕獲して陸上げしたが、右は一見亀の如くであるが甲が軟弱で前後に魚と同じヒレを有し重量四十貫あり、魚類か獸類かさへ判明せず同村小學校に持ち運んで研究中であるが見物が群集してゐる。

磐崎村長
後任爭ひ

石城郡磐崎村では二十七日午前十時から村會を召集し久しく紛糾を續けてゐる後任村長問題をのみにて十頭の豚コレラが發生に感染し大字江名町にまで同村し蔓延の兆があるので縣から安田技手來郡し三十日朝平署土屋技手と共に江名町に出張し豫防方法を講ずる事になつた。豚コレラの出した江名町の分左の如くである。

▲仲之作吉田芳二頭　▲津島菊次郎一頭　▲吉田源平治一頭、南町佐川團三郎一頭、坂本留次郎一頭、鈴木政吉二頭丸山丑松一頭

石城の豚コレラ
江名町に蔓延
安田、土屋の兩技手出張し豫防方法に腐心

石城郡勿來町方部に發生した豚コレラはその後益々猖獗を極め過般小名濱町に傳染したので其筋で極力豫防に腐心してゐたが遂に小名濱町から江名町仲之作に感染し大字江名町にまで同村なるだらうとの事であつた。出農工業用發動機に一轉機を齎らすものであらうと期待されてゐる

豐間漁港問題

石城郡豐間漁港の修築は本縣漁業の現狀より見て必要なことで今回の救農豫算に提出されるものと見られてゐたがその運びに至らなかつたので豐間側は大狼狽村長始め有志家出縣赤木知事に陳情したる所農村きやう救事業費三百四十六萬四千九百八十八圓中船溜船揚場設備費補助に金六萬七千三百五十圓を計上してゐるのでその内より三萬五千圓だけを豐間に振向けられることに情情の事であつた。出農工業用發動機に一轉機を齎らすものであらうと期待されてゐる

赤井嶽の
藥師祭典

磐城名刹關御井嶽藥師の大祭は明日に迫つた、今晩が祭宮祭で善男善女がドン〳〵繰出すのでこの雜沓の責にある平警察署では既に陣容が整つて萬事OKだ鐵道省の向ふを張つて自動屋さんはこの書入時を競つて臨時運轉の許可出願がザット十八件この内平署で許可を與へたのが十五臺が乘合として參詣者の便宜を圖ることになつた昨日警察署で一般に對する注意につき左の如く語つた

「左側通行は勿論だが盜犯豫防上懷中物は各自が充分の注意をして欲しいまた貸切自動車の乘合類似行爲即ち客引等の行爲は嚴重取締る方針である云々

木炭ガス
發生の實演

木炭一貫匁はガソリン一ガロンの作用をするといふ發見から大日本山林會製作の木炭ガス發生機の實演を二十六日仙臺を振出しに海岸線市町村を巡回的に行はれてゐるが平町は來月四日仲町博覽會場跡に催される筈であるこの器械が大衆化せば自動車農工業用發動機に一轉機を齎らすものであらうと期待されてゐる

漁閑期利用
莚繩講習會

江名町信用組合では不況打開策を協議の結果漁閑期を利用して婦人子供の副業として莚繩製造講習會を開き奬勵中である。

話の種

◎不況柄簡便色漁り流行のこの頃これは又耳寄り話、平町〇〇町に一軒のそば屋がある、その一角に夜になると怪しげな赤いブラ提灯を下げ、こゝ等近邊に一寸見なれぬ後家さんともお妾さんともまた女給さんともつかぬ大年增女がこつてりと紅白粉をこらして了度舞台で見る旅役者の樣に、また令孃まがひに裝つてその赤提灯の蔭にスーッと消えうせたと。その赤提灯が艶に搖らいで恍惚とさせられる。吸はれるやうに集まつて來たのは驛運送員、專賣局職工、八百屋、魚屋といつた粹な連中で、その出入りの激しいこと、そこでおかん一本つき五十錢均一で萬事オーケー、ても大衆的階級を網羅した簡便〇〇取引所ではある。時代相を物語る平町迷物よ。

シンガーミシン

開店披露

家庭用シンガーミシン月賦販賣
附屬品並に修繕、中古賣買
ミシン裁縫生徒募集

平町田町シンガーミシン會社
四倉本町十九番地
シンガーミシン會社出張所

シンガー裁縫女學院

月賦　一圓五十錢

石炭の大特賣

◎塊炭正味十貫目
一俵　金二十錢也

▽「品が良く」「値が安く」「目方は正確」です
▽トニカク一度使つて見て下さい
▽配達は一俵より致します

御注文は……電話二七番へ

平驛前
阿部石炭店

廣告

新任外科部長
内木學士來任
七月十一日ヨリ毎日診療ニ從事ス

内臓外科
整形外科
泌尿器科
醫學士　内木宗八

昭和七年七月

平町新川町十九番地
外科
産婦人科
木村病院
電話一六四番

例年の通り
氷水始めました

多少に拘らず御用命御引立の程願上ます。

特製
アイスクリーム（山盛）金十錢
あづきアイス（同）金五錢
ミルクセーキ（同）金十五錢
ソーダ水　金十錢

其他氷水各種
出前迅速

平町一丁目
藤寅
電話……一四二番

美神淋藥

試用
一週分　四圓七十錢
二週分　八圓〇〇

明らかな美音、消化殺菌
懷中良藥
超仁（ちうじん）
銀粒

口中香水入で俄然大人氣
——從來の懷中藥を斷然一蹴

一町一店主義で販賣店募集
目下大特典アリ此期ヲ逸セズ至急照會アレ手紙電話何レニテモスグ返事ス
逃セバ大損ヲカメ此機會

二十〇三十〇五十〇五十〇
大阪市南久寶寺町堺筋電話船場五四五
本舗　宮内善進堂
東京市淺草區橋交叉點電話淺草三三五二

地方代理店　山野邊藥局　平町五丁目角

融通低利　貯蓄安心
郵便貯金
大藏大臣免許
湯本信用無盡會社
電話四七番

胃腸
内科
十二指腸病
虫腸病
専門

婦人病
淋病
皮膚病
専門

松村胃腸科醫院
平町南町（電話一〇一）

共存共榮
大藏大臣免許
無盡
磐城無盡
敬意
磐城
簡易ノ金融ハ磐城無盡ニ
平町字三崎八十八番地

谷口長治儀廿八日午前一時死去
仕候に付此段御通知申上候

追て葬送の儀は來る三十一日午後二時自宅出棺
天理教墓地に於て告別式相營み可申候

昭和七年八月廿八日

福島縣平町二町目
妻　ト
弟　安治
外　親戚一同

氷の御用は
電話四六七番へ

勿來製氷會社一手販賣
平二丁目
警察署通り
魚清氷卸部

江名濱築港内
支店　江名販賣所
電話六十九番

新舞子清遊會
申込期間……九月三日正午迄

會員券

期日　昭和七年九月四日（日曜日）
場所　新舞子（夏井川口ニテ川地曳ヲ引ク）
會費　金壹圓貳拾錢也（前納）
集會場所　平町鎌田橋上
出發時間　正午前八時半（夏井川舟ニテ下ル）
宴會　晝食及粗酒ヲ呈ス
但（希ハ地曳ニテ得タル新鮮ノモノヲ使フ）
解散時間　午後四時頃（新舞子）

主催　東北興信所
平新田町
電話三三二番